

巻 頭 言

この度、高知工科大学紀要第 11 巻を発行することになりました。多くの大学では、紀要は研究成果を発表するための刊行物として位置づけられていますが、本学の紀要は単なる研究論文集ではなく、大学全体の活動を広報する手段でもあります。

2004 年 3 月に創刊されて以来、本巻で 11 年目を迎えますが、これまでの報告内容から、本学が如何に絶えざる進化発展につとめてきたか窺い知れます。本学紀要にはこれまで様々な工夫が施され、今では、テクノロジー、教育、地域連携、調査・活動報告、国際交流という 5 つのカテゴリーに区分して公表しております。本巻におきましても、特集「UC Berkeley 研修報告」を含む 30 編の論文がバランスよく区分されております。是非ご高覧いただきたく存じます。

昨今、国内外の学会においてもペーパーレスの促進やコスト削減などを目的として、冊子体の配布を制限してきております。本学紀要は数年前から 250 ページを超えるボリュームになってきたこともあり、紀要委員会におきまして広報的機能を維持・強化しつつ、電子化のメリットを生かすことを主眼として紀要の形態について議論を重ねて参りました。その結果、本巻から電子化に踏み切ることになりました。すなわち論文本体をオンライン公開のみとし、その代わりに、別途、論文の要約や筆者のプロフィール等を収容した数十ページの概要集を冊子体として発刊します。これによりコストは半減し、またさらなるボリュームアップにも対応可能となりました。

2013 年度、本学に 4 つの本部とその下に 9 つのセンターが設置され、教職員協働による運営体制が強化されました。今後は、各本部、各センターからの活動につきましても本紀要に報告されることを期待しております。

最後になりましたが、ご執筆頂いた教職員の皆様と、本巻発行にご尽力頂いた紀要委員会の長崎政浩委員長をはじめ委員の方々に感謝申し上げます。

副学長 蝶野 成臣